

東広島キャンパスのサクラ鑑賞会 (第23回広大マスタース例会報告)

広島大学マスタース会員 池田秀雄

2019年4月7日10:00-14:00、東広島キャンパスのサクラ鑑賞会を実施した。参加者は23名(会員6、友の会会員5、ウオーキング友の会会員12)であった。例年では、3月中にソメイヨシノは満開を過ぎて散っているはずで、遅咲きのサトザクラ系品種の見ごろの予定であった。しかし本年は、例年に比べて花期が約10日遅れ、幸か不幸かソメイヨシノの丁度満開の時期であった。

広大中央ロバス停に集合し、「広島大学東広島キャンパスのサクラ」という冊子を配布して、この資料と照らし合わせながら観賞した。

まず、集合場所外周のソメイヨシノ、ブルーバール交差点の交番裏のソメイヨシノとヒガンザクラ系を観賞した。残念ながらキャンパス外周のサトザクラ系の品種は未だ蕾の段階であった。ついで、東口からキャンパス内に入り、理学部南側の満開のソメイヨシノの間を通り、植物園の遊歩道に入って小川沿いのアカマツ林に入った。ここはキャンパス造成以前の里山の情景がわずかに残されている場所であり、小さなため池や湿地、水田などが保存されている。大学本部南側の斜面を登ると、春と秋の年間2回咲くジュウガツザクラがあるが、花卉は既に散っていた。続いて、国際の森に植栽されている被爆したソメイヨシノとヒロシマエバヤマザクラの花を観賞した。これらは、被爆木(ソメイヨシノは広島市役所正面入口南に生存)から、挿木によって増殖されたものであるが、被爆したソメイヨシノの生育があまり良くないのが心配である。学士会館南側を通って南下し、西図書館付近のカンヒザクラ系の品種の傍を通ったが、これらの品種の多くはすでに花期が終わっていた。西食堂付近のサトザクラ系品種は蕾であった。思案橋まで下り、工学部棟東斜面のソメイヨシノを、角脇川越しに観賞し、クラブハウス横の道沿いに植栽されているソメイヨシノが満開のピンクのトンネルを抜けて、キャンパス南端の屋外競技場に至った。ここもソメイヨシノのピンクのトンネルとなっており、留学生や子連れ的外部の方々が数十名で既に花見を始めていた。我々もここで昼食を兼ねた満開の花見をし、風に運ばれて弁当折に入って来る花びらを楽しんだ。最後に、南外周道路の橋を渡り、野生のヤマザクラを見ながら南駐車場と国際協力研究科周辺の多くの品種が植栽されている所に至った。

カンヒザクラ系やヒガンザクラ系の品種は既に花は散っていたが、ベニシダレやヤエベニシダレは花の最盛期であった。サトザクラ系の品種は未だ蕾の段階であり、これらの品種は本年は4月中旬以降が見ごろであろう。この場所は、3月初めからカンヒザクラが咲き始め、5月初めにかけてサトザクラ系品種が順次咲き、しかも大輪で八重の花びらが散りにくい品種もあるので、永く楽しめるように植栽してある。一斉に散ってしまうソメイヨシノだけでなく、時期をずらして多品種を觀賞頂きたい。

